

三宅島

概況（平成14年5月）

山頂直下の地震活動は低い状態で、振幅の小さな火山性微動が発生しましたが、火山活動に大きな変化はありませんでした。また、三宅島の収縮を示す地殻変動は、長期的には鈍化傾向にあります。

以上のことから、火山活動は全体として低下傾向にありますが、今後も小規模な噴火は発生する可能性があります。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、依然として高い値です。風下では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。

また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

5月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は以下のとおり

観測実施日	二酸化硫黄放出量（日量）	火口内最高温度	協力機関
5月15日	20,000トﾝ 15,000トﾝ	257	東京消防庁
5月22日		202	警視庁
5月30日	8,000トﾝ 6,000トﾝ 8,000トﾝ	251	陸上自衛隊

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上 1,500m（29日）でした。

地震活動状況

山頂直下の地震活動は低い状態でした。

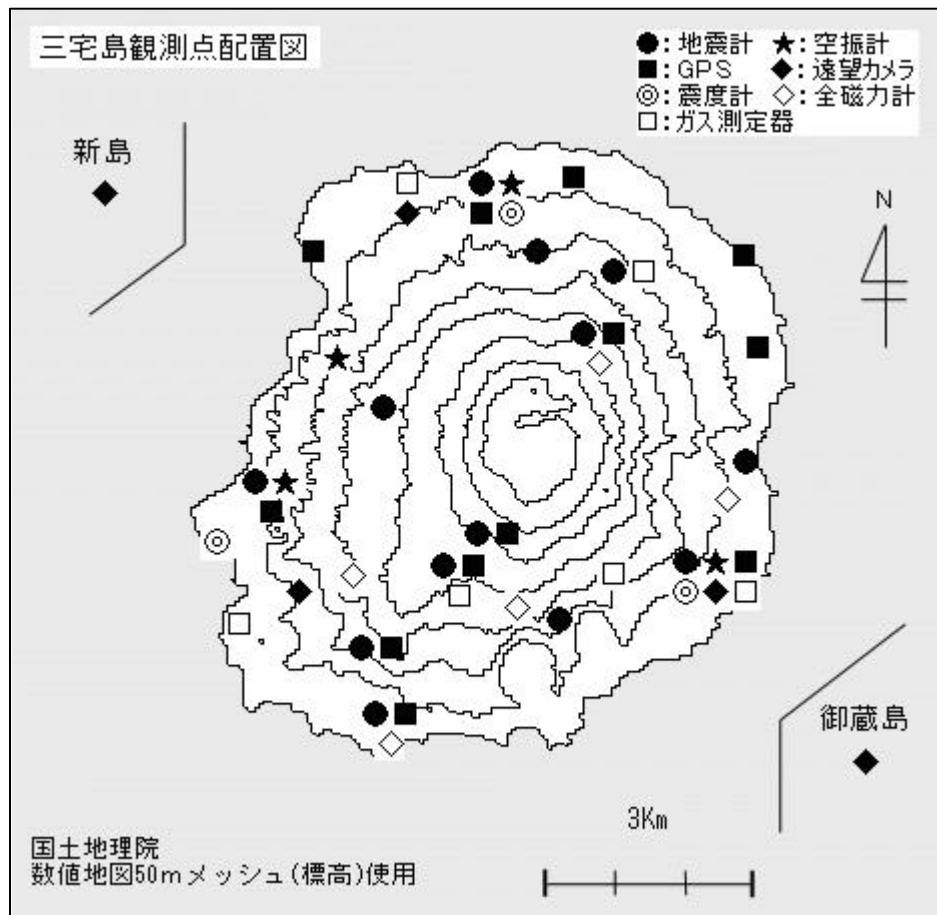
微動回数が時折やや多い状態となり、中には振幅の小さい空振を伴うものもありました。このうち、12日17時36分及び14日17時54分に発生した振幅のやや大きな微動では、ともに三宅村神着で震度1を観測しましたが、表面現象等には、特に異常はみられませんでした。

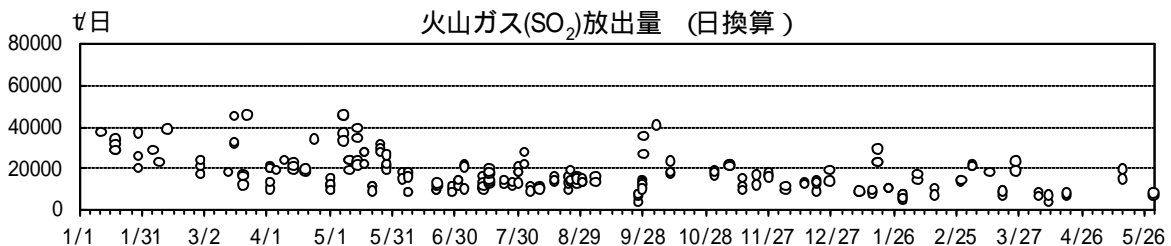
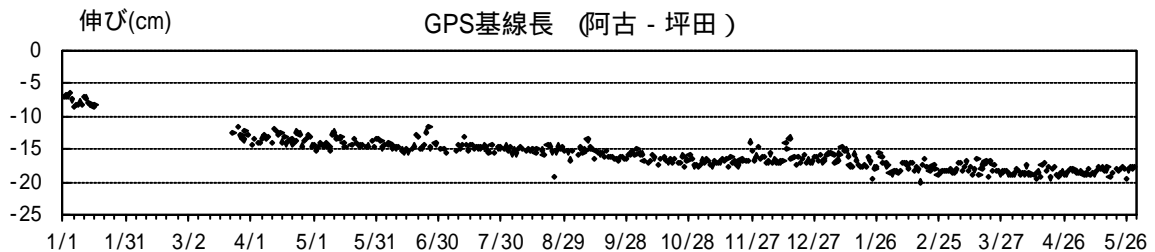
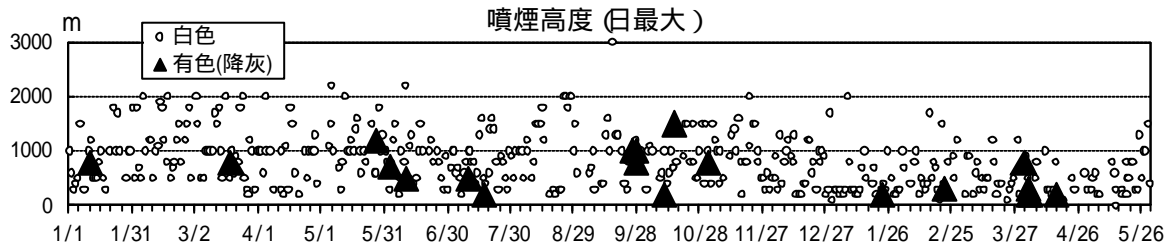
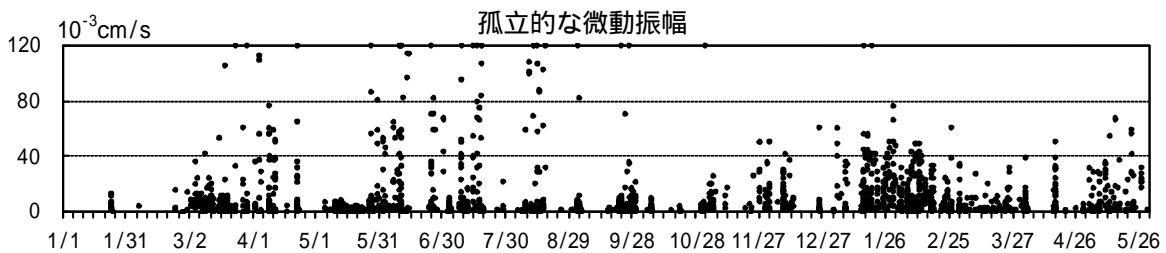
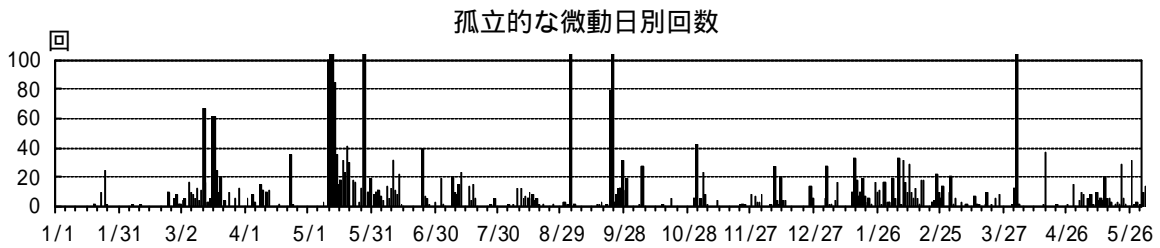
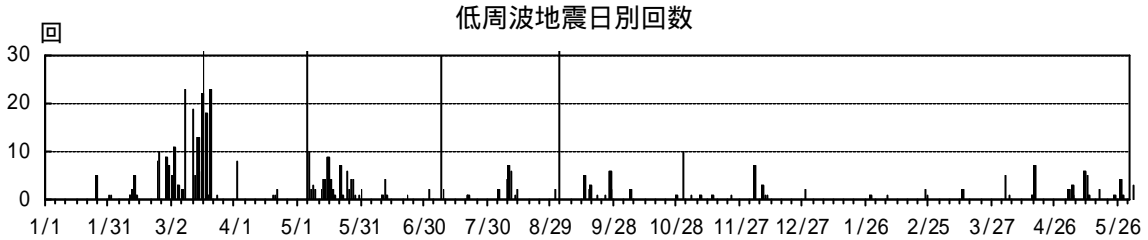
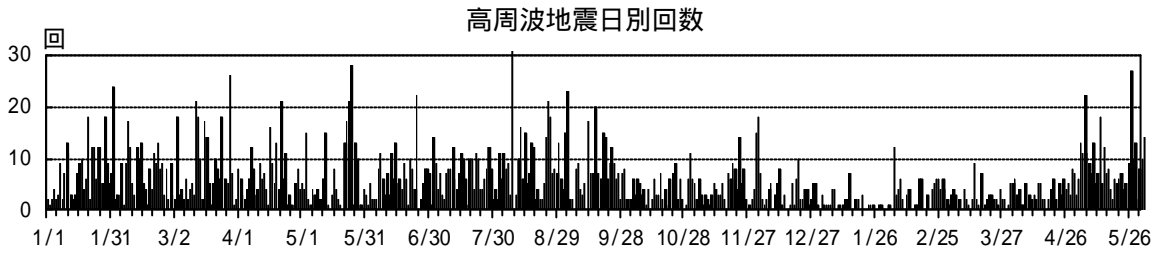
地殻変動の状況

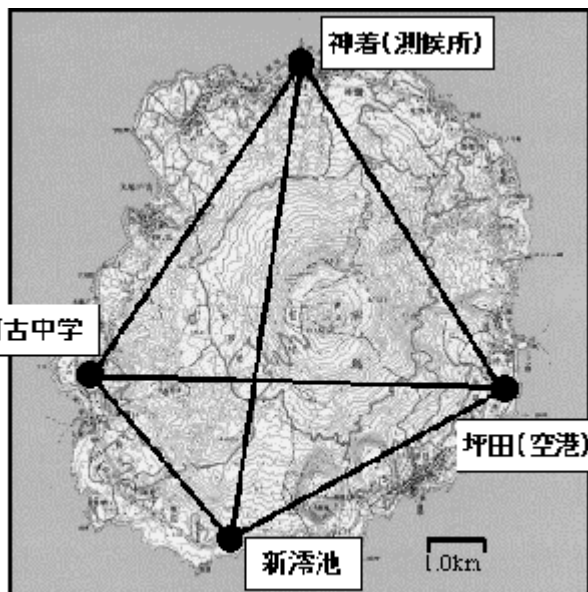
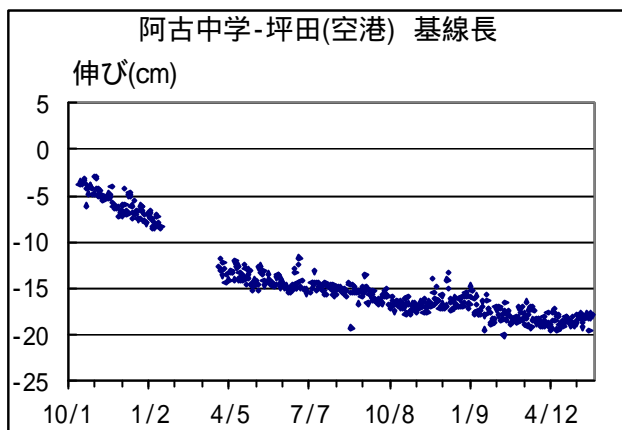
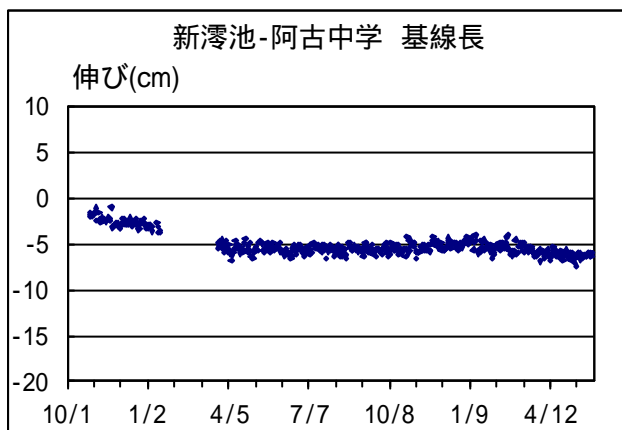
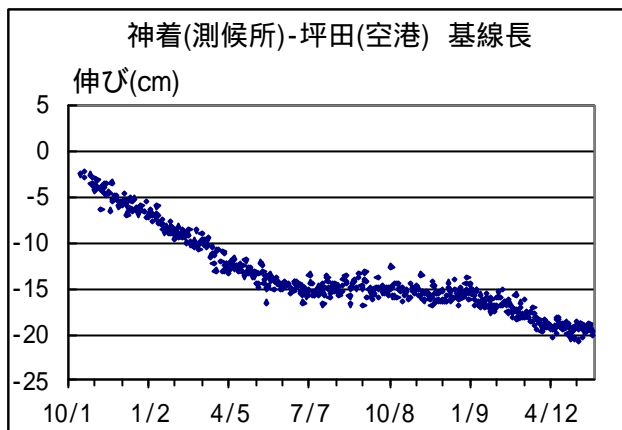
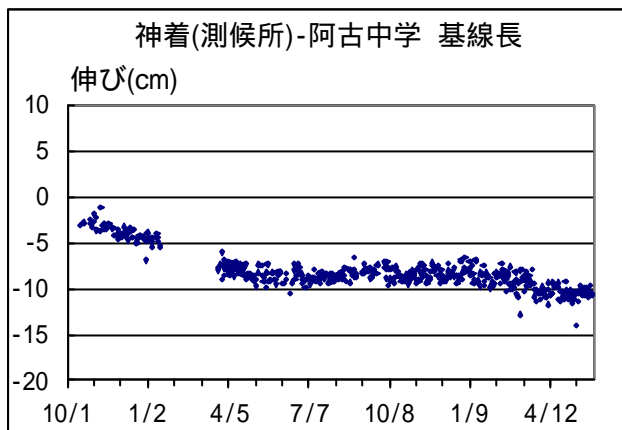
GPSによる地殻変動観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、長期的には鈍化傾向にあります。

火山性地震・微動日別回数表(三宅島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	3	6	13	11	22	11	9	7	13	5		100	
低周波地震	0	2	2	3	1	0	0	0	0	6		14	
微動	0	4	9	8	0	5	8	1	0	9		44	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	7	18	5	12	7	8	4	2	6	5		74	
低周波地震	5	1	0	0	0	0	2	0	0	0		8	
微動	4	6	4	20	5	6	3	0	2	3		53	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	6	7	4	5	0	9	27	10	13	2	8	91	265
低周波地震	0	0	0	1	0	0	4	1	0	0	0	6	28
微動	2	29	6	2	0	0	31	1	3	0	1	75	172

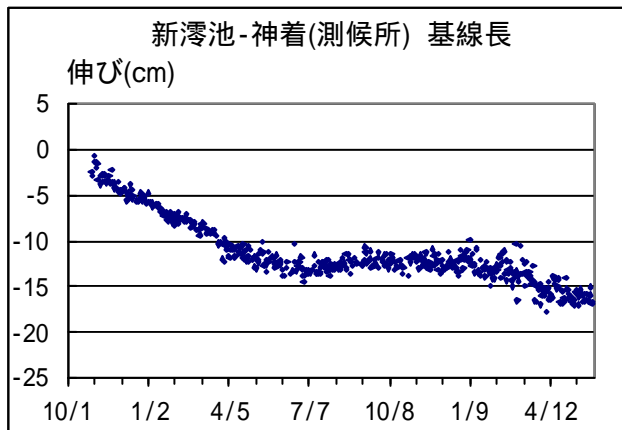
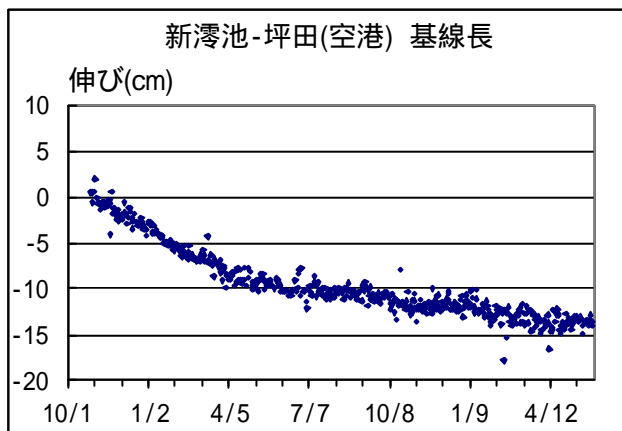




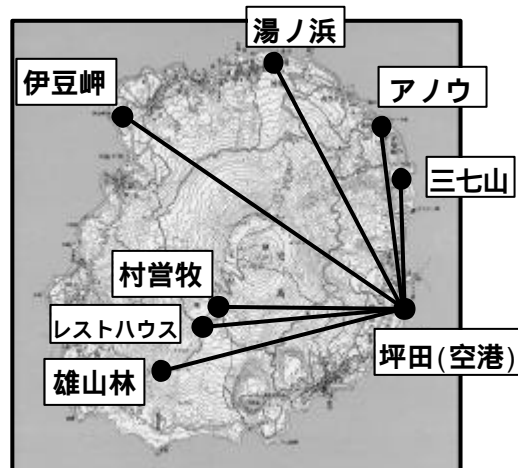
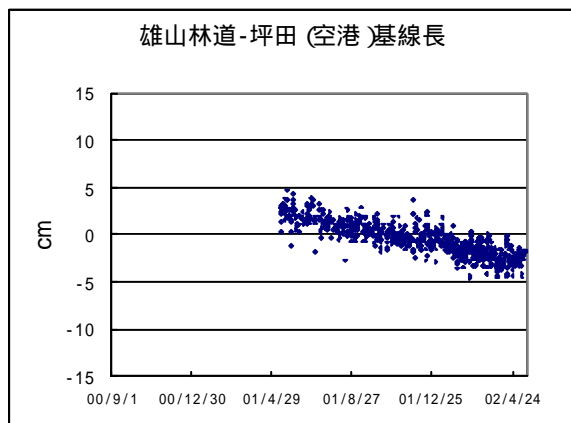
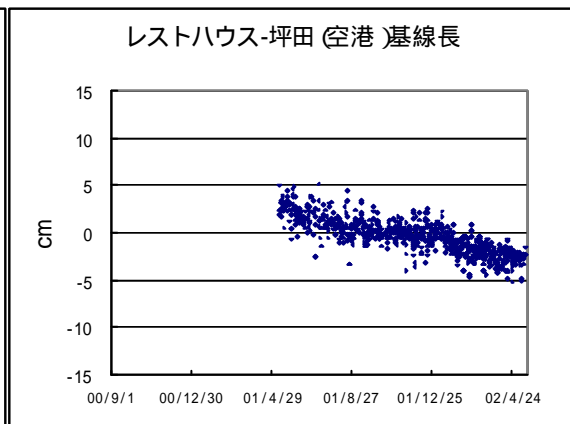
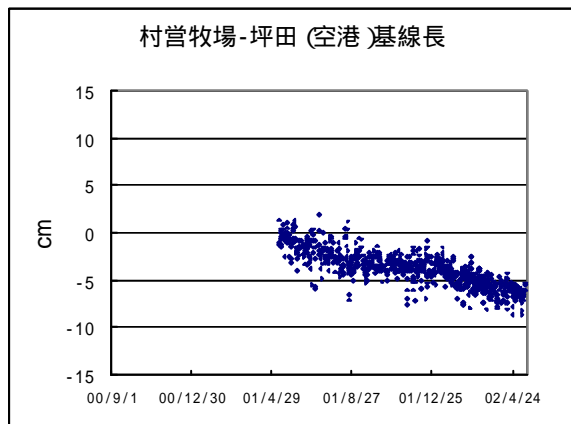
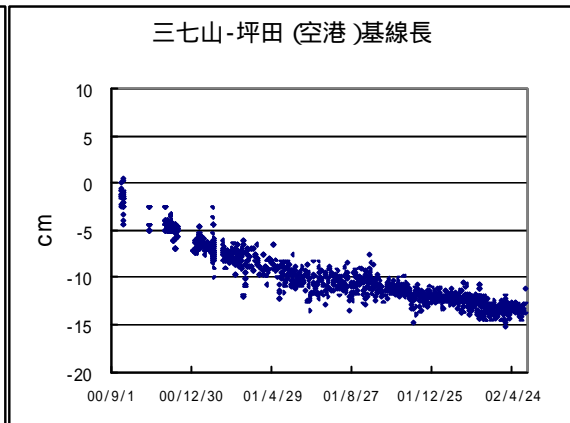
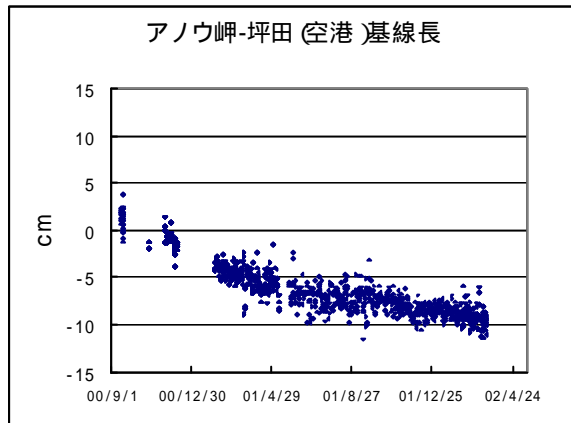
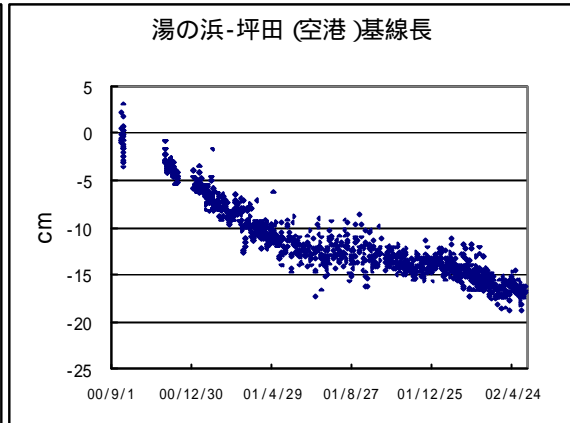
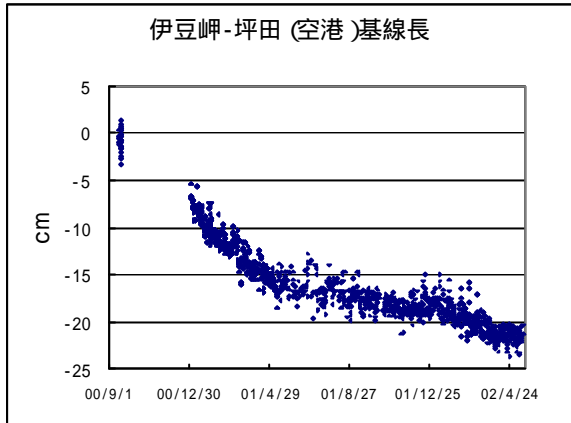


気象庁GPS観測点配置区

基線長の変化には季節的な変動が含まれている可能性がある。
 2002年1月以降に見られる収縮傾向の加速的变化は火山活動の変化によるものではないと考えている。



三宅島GPS(オンライン)観測結果(2000年10月1日~2002年5月31日)



三宅島GPS(現地収録)観測結果(2000年9月1日~2002年5月21日)